

## 平成29年度予算に向けた再評価について (平成28年8月末現在)

### 【公共事業関係費】

事業区分		再評価実施箇所数						再評価結果			
		一定期間未着工	長期間継続中	準備計画段階	再々評価	その他	計	継続		中止	評価 手続中
								うち見直し継続			
ダム事業	直轄事業等	0	0	0	1	5	6	5	0	0	1
合計		0	0	0	1	5	6	5	0	0	1

(注1) 直轄事業等には、独立行政法人等施行事業(補助事業を除く)を含む

(注2) 再評価対象基準

一定期間未着工: 事業採択後一定期間(直轄事業等は3年間、補助事業等は5年間)が経過した時点で未着工の事業

長期間継続中: 事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業

準備計画段階: 準備・計画段階で一定期間(直轄事業等3年間、補助事業等5年間)が経過している事業

再々評価: 再評価実施後一定期間(直轄事業等3年間、補助事業等5年間)が経過している事業

その他: 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業

# 再評価結果一覧 (平成28年8月末現在)

【公共事業関係費】

【ダム事業】  
(直轄事業等)

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳					B/C
サンルダム建設事業 北海道開発局	その他	559	1,650	809	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川整備計画規模の洪水が発生した場合、天塩川流域(サンルダムより下流)では、最大孤立者数(避難率0%)は約7,800人と想定されるが、事業実施により約2,000人に軽減される。</li> <li>・同様に、河川整備計画規模の洪水が発生した場合、天塩川流域(サンルダムより下流)では、電力の停止による影響人口が約7,100人と想定されるが、事業実施により約1,700人に軽減される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画を変更する事業は、社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業に該当するため、再評価を実施。</li> <li>①事業を巡る社会情勢等の変化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・氾濫のおそれがある区域を含む市町村の総人口は平成23年から平成27年にかけてやや減少しているものの、総世帯数はほぼ横ばいで大きな変化はない。</li> <li>・水田・畑の面積は平成22年から平成26年にかけてほぼ横ばいで大きな変化はない。</li> <li>・水道用水として参画している名寄市及び下川町に対して、平成28年4月に「サンルダムの建設に関する基本計画」の変更について照会した際、事業の参画内容変更の申し出はなく、それ以降も変更の申し出はない。</li> <li>・発電として参画している、ほくでんエコナジー株式会社に対して、平成24年12月に「サンルダムの建設に関する基本計画」の変更について照会した際、水車・発電機成功率等の変更に伴い発電能力の見直しを行ったため最大出力を1,100kWに変更すると申し出があり平成25年5月に基本計画を変更した。また、平成28年4月に変更について照会した際も、事業の参画内容変更の申し出はない。</li> </ul> </li> <li>②事業の進捗状況、事業進捗の見込みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダム本体工事については、平成28年3月末現在、転流工及び基礎掘削が完了しており、本体打設工事は4%の進捗状況(事業費ベース)。</li> <li>・平成28年3月末までに、事業費約427億円投資。進捗率は76%(事業費ベース)。</li> <li>・今後のスケジュールについては、引き続き本体工事等を実施予定。</li> </ul> </li> <li>③コスト縮減や代替立案立案等の可能性について <ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者等の委員で構成する、「サンルダム工程コスト検討委員会」を設置し、各年度の予算と事業内容、コスト縮減策等について報告している。</li> <li>・上下流横断構造物部分の打設に使用するL型プレキャスト型枠の設置は、当初は全ての断面に設置する計画だったが、確認試験(端部法面締め)の結果、十分な強度を得られることが確認できたため、左右岸往來のための仮橋設置部のみとすることで、コスト縮減を図る。</li> <li>・今後も引続き、設計段階や工事施工においても工法の工夫や新技術の積極的な採用等により、コスト縮減に努める。</li> <li>・平成22年度から平成24年度に実施したサンルダム建設事業の検証に係る検討において、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき現計画案(サンルダム案)と現計画案以外の代替案を複数の評価軸ごとに評価。最も有利な案は、現計画案(サンルダム建設事業)と評価している。</li> <li>・今回のサンルダム基本計画の工期、総事業費の変更により、洪水調節、新規利水、流水の正常な機能の維持の目的別の総合評価において、その「コスト」や「時間的な観点から見た実現性」から、「現計画案(サンルダム案)」が有利とのダム検証時の評価を覆すものではなかった。</li> </ul> </li></ul>	継続	水管理・国土保全局治水課 (課長 泊宏)	

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析				貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)						B/C
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
ハツ場ダム建設事業 関東地方整備局	その他	-	-	-	-	-	-	-	評価手続中	水管理・国土保全局治水課 (課長 泊 宏)	

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B/C
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳					
設楽ダム建設事業 中部地方整備局	その他	2,400	3,834	1,852	2.1	<p>・河川整備計画の目標規模の大雨が降ったことにより想定される浸水が発生した場合、想定死者数は約30人、最大孤立者数は約8,600人と推定されるが、整備を実施することで想定死者数は約5人、最大孤立者数は約990人に低減される。</p> <p>・河川整備計画の目標規模の大雨が降ったことにより想定される浸水が発生した場合、国道1号等の主要道路で交通途絶が発生するが、整備を実施することで国道1号等の交通途絶は解消される。</p>	<p>・基本計画を変更する事業は、社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業に該当するため、再評価を実施。</p> <p>①事業を巡る社会情勢等の変化          ・新東名高速道路等の交通網整備により、今後益々の発展が期待される地域となっている。          ・流域の人口(3市1町)は、約59万人であり近年横ばいとなっているが、世帯数は増加している。          ・豊川の水と温暖な気候の恵みを受け、露地野菜や果物、園芸作物などの農業が盛ん。          ・三河港周辺の臨海工業地帯では自動車産業を中心とした工業生産活動が行われている。</p> <p>②事業の進捗状況・進捗の見込みについて          ・ダム検証において、平成26年4月に国土交通大臣による事業を「継続」とする対応方針が決定され、その後、工事用道路及び付替道路の工事を鋭意進めている。          ・平成27年12月には生活再建者の全124世帯と家屋移転の契約が完了している。          ・平成28年3月末までに事業費約563億円を投資。          進捗率約23%(事業費ベース)          ・設楽ダムの建設に関する基本計画(第1回変更)の告示を実施する。          ・平成28年度より、本体着手に向けて転流工に新規着手する。          ・地元、関係機関と調整を図り、付替県道設楽根羽線等の工事を実施する。</p> <p>③コスト縮減や代替立案立案等の可能性について          ・学識経験者等の委員で構成する、「設楽ダム事業費等監理委員会」を平成20年8月に設置し、各年度の予算と事業内容、コスト縮減策等について意見を頂いている。これまでのコスト縮減に加え、引き続き、設計段階や施工段階において工法の工夫や新技術の積極的な採用など、事業監理に努める。          ・設楽ダム建設事業の検証に係る検討において、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき、「洪水調節」、「流水の正常な機能の維持」、「新規利水」について、目的別の総合評価を行った結果、最も有利な案はいずれも「設楽ダム案」と評価している。</p>	継続	水管理・国土保全局治水課 (課長 泊 宏)	

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析				貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)	
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)						B/C
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
鶴田ダム再開発事業 九州地方整備局	再々評価	711	845 (※1)	【内訳】(※1) 被害防止便益：824億円 残存価値：21億円 【主な根拠】(※1) 年平均浸水軽減戸数：137戸 年平均浸水軽減面積：30.5ha	734 (※1)	【内訳】(※1) 建設費 701億円 維持管理費 33億円	1.2 (※1)	<p>・昭和29年8月洪水、昭和46年8月洪水等のより甚大な浸水被害が発生しているほか、近年では、平成5年8月洪水をはじめ、平成9年9月洪水等浸水被害が発生し、特に本事業の契機となった平成18年7月洪水では戦後最大の洪水が発生し、甚大な浸水被害が発生している。</p> <p>・このため、浸水被害の早期解消は必要である。</p> <p>①事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・人口の推移においては、大きな変化はない。 ・薩摩川内市では、JR九州新幹線や国道3号等の基幹交通施設に加え、南九州西回り自動車道も完成し、交通の要衝となっている。 ・河川事業においては市街部改修事業（引堤事業）を薩摩川内市の土地区画整理事業等と連携実施しており、これにより治水安全度の向上が図られ、新しい市街地が形成されている。 ・河川改修および鶴田ダム再開発事業の促進に向けて鹿児島県知事を会長とする「川内川改修促進期成会」、薩摩川内市長を会長とする「川内川下流改修促進期成会」より事業促進に向けて要望がなされている。</p> <p>②事業の進捗状況、事業進捗の見込みについて ・現在、増設減勢工打設、付替発電管が完了し、既設減勢工改造工事等に着手。平成28年度より治水効果発現。 ・平成29年3月末（見込み）までに事業費約657億円を投資。進捗率約92%（事業費ベース） ・今後は既設減勢工の改造及び右岸法面対策工等を速やかに実施し、平成29年度の事業完成を目指す。</p> <p>③コスト縮減や代替立案立案等の可能性について ・鶴田ダム再開発事業では、これまで新技術を活用するなどのコスト縮減を図り、ダム事業を進めている。今後着手予定の工事においても、引き続き更なるコスト縮減を図っていく。 ・既設減勢工改造の新設マツト部において、岩着部を含めRCD工法の検討を行い、施工合理化及び単位セメント量を低減し、コスト縮減を図る。 ・前回事業再評価時に代替案の比較検討を行い、鶴田ダム再開発事業の妥当性を確認している。</p>	継続	水管理・国土保全局 治水課 (課長 治 宏)	

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)		
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B/C	
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
本明川ダム建設事業 九州地方整備局	その他	500	653	523	1.2	<p>・整備計画規模の洪水が発生した場合、事業実施により浸水区域内人口は約10,400人、浸水により被災する事業所の従業者数は約7,500人、最大孤立者数は約5,000人、通信停止の影響人口は約6,600人が軽減される。</p> <p>・計画規模の洪水が発生した場合、事業実施により浸水区域内人口は約1,800人、浸水により被災する事業所の従業者数は約900人、最大孤立者数は約1,700人、通信停止の影響人口は約3,200人が軽減される。</p>	<p>・河川整備計画の変更(平成28年3月)を行った場合には、再評価の手続きが行われたものとして位置づけられるため、再評価を実施。</p> <p>①事業を巡る社会経済情勢等の変化          ・想定はん濫区域内人口は、ほぼ横ばいである。          ・本明川中流部の諫早市街地では、宅地、小学校、道路の開発が進み、資産は増加傾向にある。今後九州新幹線の開通により、諫早駅周辺の開発が進むと見込まれる。</p> <p>②事業の進捗状況、事業進捗の見込みについて          ・本明川ダム建設事業は平成2年に実施計画調査に着手し、現在は、本体の着工に向け、用地調査、地質調査、環境調査等を実施している。          ・平成28年3月までに、事業費約88億円を投資、進捗率約16%(事業費ベース)          ・今後ダム本体工事に着手し、平成36年度に完了する見込みである。</p> <p>③コスト縮減や代替立案立案等の可能性について          ・今後の設計や施工段階で新技術の積極的な活用や、本明川ダム建設事業費等監理委員会より意見を伺いながら、コスト縮減に努める。          ・平成25年度に実施した本明川ダム建設事業の検証に係る検討において、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき今回変更計画案(本明川ダム案)と今回変更計画案以外の代替案を複数の評価軸ごとに評価し、今回変更計画案(本明川ダム案)が最も有利と評価している。</p>	継続	水管理・国土保全局治水課 (課長 泊 宏)		

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等 による評価	再評価の視点 (投資効果等の事業の必要性、事業の 進捗の見込み、コスト縮減等)	対応方針	担当課 (担当課長名)		
			貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)					B/C	
			便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳						
川上ダム建設事業 独立行政法人水資源機構	その他	1,180	4,366	1,574	2.8	<p>・河川整備基本方針規模の洪水が発生した場合、淀川水系では、最大孤立者(なんば線完成前、避難率0%)は約54万人、電力の停止による影響人口(なんば線完成前)は約49万人と想定されるが、事業実施後は最大孤立者(なんば線完成前、避難率0%)は約10万人、電力の停止による影響人口(なんば線完成前)は約9万人と被害軽減される。</p>	<p>・本体工事の着手にかかる予算を要求しようとする事業は、社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業に該当するため、再評価を実施。</p> <p>①事業を巡る社会経済情勢等の変化 ・淀川流域は、大阪、京都の二大都市と、これらを囲む多くの都市を抱え、近畿圏の基盤をなす区域である。流域関連市町村の総人口は1,124万人(平成27年国勢調査速報値)であり、近畿の総人口2,150万人(平成27年国勢調査速報値)の約52%を占めている。</p> <p>②事業の進捗状況、事業進捗の見込みについて ・平成27年度末までに用地取得(114ha/115ha)が実施済み。家屋移転(契約)が完了。 ・付替県道(8.5km/8.8km)、転流工(仮排水トンネル)が実施済み。 ・現在、付替県道工事等を実施中である。 ・平成28年3月末までに事業費約644億円を投資、進捗率約55%(事業費ベース) ・付替道路工事を実施中であり、今後はダム本体を建設し、平成34年度事業完了を目指す。</p> <p>③コスト縮減や代替案立案などの可能性について ・管理用建物について、管理用宿舎は新築とする計画であったが近隣事務所の既設宿舎を共用する計画に見直し、コスト縮減を図った。 ・市道等の代替として補償する生産管理用道路(林道)について、関係者との協議を行い林業の施業実態にあわせてルートの見直しを行い、コスト縮減を図った。 ・今後の工事においても、引き続き合理的な設計、施工の合理化、新技術の活用等による事業費抑制とコスト縮減を図り、事業の効果的な執行に努めたい。 ・平成26年度に実施した川上ダム建設事業の検証に係る検討において、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき現計画案(川上ダム案)と現計画案以外の代替案を複数の評価軸毎に評価し、最も有利な案は、現計画案(川上ダム案)と評価している。</p>	継続	水管理・国土保全局治水課 (課長 泊 宏)		

(※1) 前回評価時において実施した費用便益分析の要因に変化が見られないことなどから、前回評価の費用便益分析の結果を用いている。